

全体概要

With Kyutech

九州工業大学で学んだ仲間（アソシエ）が、修了後もずっと学べる場所。



講師から学ぶ



卒業生同士学び合う



企業から学ぶ

九州工業大学の講師から学び続ける、九工大アソシエと学び合う
産学連携で共創する、生涯リスキングのプラットフォーム

パートナーランク別サービス内容(2025年度)

パートナーシップ費用(年額)		ブロンズ	プラチナ	ダイヤモンド
		440,000円	880,000円	2,200,000円
サービス項目				
「ウェブで学ぶ」への閲覧 講師陣の教育コンテンツおよび最新エンジニアリングを学ぶ webページのURL限定公開		○	○	○
「セミナー で学ぶ」	交流セミナー(オンサイト、オンライン)への参加 アソシエ、講師、協賛企業、連携教育機関等の学び合い の場、講師陣、研究者、企業による最新のエンジニアリ ングなどの情報を提供	○	○	○
	懇談会(セミナー終了後)への参加(有料)	○ (1名まで)	○ (5名まで)	○ (10名まで)
	優先登壇権 依頼/了承の上、「ウェブで学ぶ」への URL限定公開	—	○ (2回/年)	○ (4回/年)
研修受講チケット*1		28万円 相当分	40万円 相当分	80万円 相当分
Kyutech ARISE HPへの掲載 企業名、ロゴとHPリンクの掲載		企業名のみ掲載	○	○
パートナー企業限定TOP交流会 九工大学長・役員、登壇者などを含めた交流の場(年2回)		○ (1名まで) 会食費別途	○ (2名まで) 会食費含	○ (5名まで) 会食費含
KCS*2への企業情報の投稿 企業での取り組み情報、企業PR、求人情報		1回以内/4週	1回以内/2週	1回以内/週
パートナーシップ×キャリアフォーラム 採用を意識しつつ、キャリア醸成・ビジネス機会も含むフォーラム(年1回)		参加費別途	○	○

注記：*1 継続契約された場合は翌年度まで持ち越し可能。
*2 KCS:九工大アソシエが集うウェブ。



九州工業大学講師陣による社会人の新しい“学び”を創造します



お問い合わせ TEL 070-3256-9229

HP: <https://www.kyutech-arise.co.jp>

mail: info@kyutech-arise.co.jp

発行日: 2025年5月



成長を実現する共創プラットフォームで、学び・学びあい、新時代のテクノロジーで未来社会を創造していきましょう。

Kyutech ARISEは、国立大学法人九州工業大学の豊かな教育資源や産業ネットワークを活用し、次世代のリーダーを育成するために九州工業大学100%出資の株式会社として設立されました。情報工学部の強みであるAIやデータサイエンスを中心に、実践的な教育と最先端の研究を通じて、人財育成に取り組んでいます。今後は、ロボティクス、宇宙システム等工学部系の特長ある研修カリキュラムを整備していく予定です。

Kyutech ARISEは、北部九州地域を中心に、日本全国およびアジア地域での人財育成を目指し、地域の持続的な発展に貢献することを使命としています。産学連携を強化し、革新的な技術とイノベーションを生み出し、社会に貢献していきます。

私たちは、社会人や企業の皆様とお互いの成長を実感して、未来を切り拓くためのパートナーシップを大切にしていきます。これからも、私たちの活動にご期待いただき、共に明るい未来を築いていきましょう！



株式会社 Kyutech ARISE
代表取締役社長 嶺 正二郎

会社概要

商号 株式会社Kyutech ARISE
設立 2024年4月1日
所在地 福岡県飯塚市川津680-4 九州工業大学 飯塚キャンパス内
株主 国立大学法人九州工業大学 100%出資

沿革



戸畑キャンパス



若松キャンパス



飯塚キャンパス

九州工業大学は、1907年開校の日本屈指の歴史を誇る大学です。現在、工学部・情報工学部の2学部と、大学院の3研究科からなり、福岡県北九州市の戸畑区と若松区、飯塚市にキャンパスを設置しています。

九工大のあゆみ

- 1907 私立 明治専門学校 設立認可
- 1909 私立 明治専門学校 開校
- 1921 官立 明治専門学校へ移管
- 1949 九州工業大学 設置
- 1986 情報工学部 設置
- 2000 大学院生命体研究科(博士課程)設置
- 2004 国立大学法人 九州工業大学 設置
- 2009 創立100周年
- 2024 株式会社Kyutech ARISE 設立

Kyutech ARISEとは

国立大学法人九州工業大学のもつ教育リソースを活用した卒業生やエンジニア等の社会人向けリカレント・リスキリング教育および研修、就業支援事業等の生涯学習支援を行う人財育成プラットフォーム会社です。

「生涯学習支援」として、人生の歩みに合わせた テイラーメイドでの学びと実践の循環を創出



Kyutech ARISEのMVV

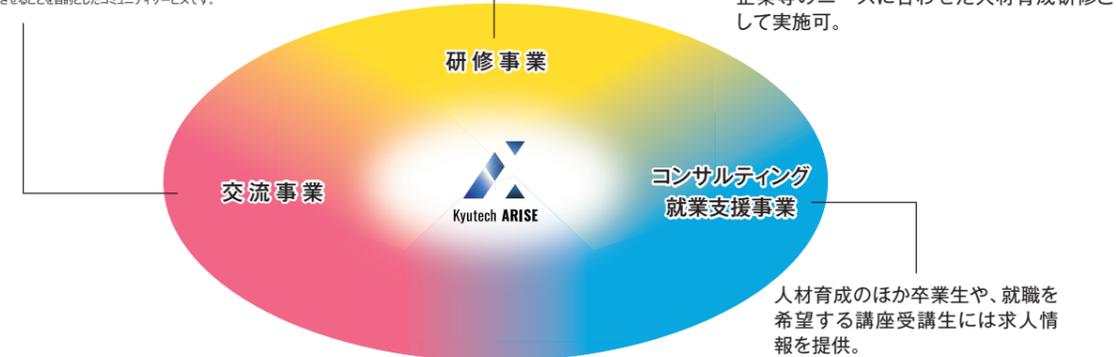
- Mission** 生涯活躍できるエンジニアや社会人修士・博士等の高度技術者を輩出することを使命とします
- Vision** 大学と企業が協働し、社会を変革できる学びのプラットフォームの構築を目指します
- Value** プラットフォームに蓄積された専門知(大学)と実践知(企業)を、ニーズに合わせて創造し価値を高めます

九州工業大学が手がけたコンテンツをベースに社会人の “学び”を実現するプラットフォームを構築

オンラインコミュニティサイト「Kyutechコミュニティサービス」^(※)を活用した交流イベントやセミナーなどを開催。

(※)九州工業大学のオンラインコミュニティサイト「Kyutechコミュニティサービス」が2024年に開設されました。同サイトは、卒業生、在学生、各種講座を受講された方などをはじめ企業様との繋がりを維持、発展させることを目的としたコミュニティサービスです。

九工大監修の教育コンテンツでエンジニアのキャリアアップを図り、九工大及び提携企業のコンテンツをカスタマイズして、企業等のニーズに合わせた人財育成研修として実施可。



DX 経営人材コース

コース概要

コースの内容

目的は、業務を遂行する上で戦略的な価値観や意識を持って行動する思考と経営視点を養うことです。

本コースでは、マネジメントに必要な経営視点や論理的思考力、IT素養と情報システムの本質的理解を持ち合わせたDX推進者の育成を目指します。

ERP講座: 基礎～応用レベル
ビジネススキル講座: デザインシンキング

主な対象者

- 将来マネジメント層としての活躍を目指す若手ビジネスパーソン
- DX推進担当者や、ITと基礎ビジネススキルを学びたい人

得られるスキル

- マネジメントに必要となるビジネススキルとマインドセット及びIT素養
- 企業戦略や戦術策定に用いるERPの活用方法

紹介動画



集合型研修とは

集合型研修は、社員のスキル向上やチームビルディングを目的とし、実践的な内容を重視しています。専門的な知識を持つ講師陣が、最新の技術やトレンドを取り入れたカリキュラムを提供し、企業の成長をサポートします。この研修は、貴社の社員研修の一環としてご活用頂けます。貴社の課題や要望をヒアリングし、最適な研修プログラムを提供します。日程や内容は貴社と協議の上で確定し実施いたします。

DX 入門 I～III

研修時間: 半日～1日程度

定員: 1回/10名～30名程度

会場: ご希望の会場にて実施

環境: グループワークが可能な会場

研修内容: ヒアリングをとおして、テーマの設定など貴社に適切な内容でご提案いたします。

DX入門I—ユーザー目線からみるDX

デザイン思考と呼ばれるユーザー中心のアプローチを用い、それぞれの団体のもつ広報ツール(HPなど)を材料として業務改善の方法について学びます。

DX入門II—問題解決とその方法

DXを推進する際の思考・問題解決に関わるフレームワークを学び、実際に演習を行います。

DX入門III—データからみるためのスキル

データ駆動型業務改善を行うためのデータの取り扱い方などについて学ぶ。Pythonによるプログラムを利用して、情報を取り出す方法を学びます。



仕事や業務に効く生成AI活用【入門編】【基礎編】【応用編】

研修時間: 1日～2日間

定員: 1回/10名～30名程度

会場: ご希望の会場にて実施

環境: ネットワーク環境、生成AIの利用環境

研修内容: 実践式およびワークショップなどを通じて世の中のデジタルやAIに関する知見やプロンプトといったスキルの習得を目指します。研修は受講者に考えるだけでなく、手を動かす機会を生みAIとの対話を行いながら進めます。また、業務上どのようなシーンにおいて利用できるか、利活用促進に応じたコンテンツを提供し、組織横断型(立場や業務の繋がりの無い)でのワークショップを提案しています。

DX 入門関連科目

高校情報Iで学ぶDXの基礎I—情報社会での問題解決

高校情報Iを参考に、情報技術を活用する現代社会に生じる問題への基礎的な知識とスキルを学びます。

高校情報Iで学ぶDXの基礎II—コミュニケーションと情報デザイン

高校情報Iを参考に、コンピュータが用いる情報及びシステムデザインに関わる基本的な知識とスキルを学びます。

高校情報Iで学ぶDXの基礎III—コンピュータとプログラミング

高校情報Iを参考に、コンピュータシステムの構造とプログラミングの基礎を学びます。

高校情報Iで学ぶDXの基礎IV—情報ネットワークとデータの活用

高校情報Iを参考に、情報ネットワークの基本的な知識とデータの利活用方法に関する基礎的なスキルを学びます。

行政DXリテラシー入門

行政などの業務をDXする上で必要となる情報技術及び関連思考方法のリテラシーを学ぶことを通して、行政業務改善、情報セキュリティ、ソフトウェアの効率的な使い方を学びます。

行政DX情報システム入門

行政DXに関わる情報システムを導入するための基礎となるリテラシー・知識・スキルを学びます。

行政DX情報システム基礎WS

行政DXを進めるための情報システムを発注する際に必要となる思考方法、データの取扱、及び設計書・要件定義・仕様書などの具体的な記載に関するワークショップを行います。



企業経営システム関連科目群

企業経営システム入門(旧ERP入門)

企業経営における経営情報システムの役割、ERPシステムの基礎、およびERPシステムの構成と機能について学修します。

企業経営システム実践

企業におけるDX実現の基盤として、経営システムとその中心となるERPシステムが重要であり、本講座ではDX実現におけるERPシステムの役割とその具体的な機能、その構造や仕組み、更に導入方法を含めて学修します。

エンタープライズアーキテクチャ演習

企業の経営戦略とDX戦略を統合し、持続的な成長を実現するための手法として注目されるエンタープライズアーキテクチャ。本講座では、EAの基本概念から実践的な活用方法まで学び、実際の企業事例をもとにしたワークショップで実践力を学修します。

単体科目

基礎から学ぶデザイン思考

デザイン思考(ユーザーを中心とした問題解決の手法)を中心として、DXリテラシー、ブランディングの関連する3科目について基礎的な知識を学びます。

UI(ユーザインタフェース)入門

使いづらいアプリ、わかりづらいWeb、間違え操作…Bad UIに立ち向かうための具体的な知識・知恵・技術を学びます!

UX(ユーザーエクスペリエンス)入門

課題を“見える形”にし、解決策に“納得感”を—合意形成を支えるUX、そのプロセスを加速する生成AIについて学びます!

高度ソフトウェアエンジニアコース

コース概要

コースの内容

目的は、経済産業省の発表で2030年に最大79万人の不足が予想される情報技術(ソフトウェア開発、システム運用、データ分析、ネットワークなど)に関して、高度な知識とスキルを持つIT人材の不足(質・量)を解決することです。

本コースでは、クラウド、IoT、セキュリティ、データサイエンス、プロジェクトマネジメントなどとともに、最先端の技術に精通し、状況に応じた適切なソリューションを創成できる高度ソフトウェア開発者の育成を目指します。

また、社会の進化をリードする学校教育・学校現場のICT化に対応すべく、初等・中等・高等教育の現場で活躍できる人材の育成も目指します。

紹介動画



主な対象者

DX推進、IoT、クラウドサービス、ソフトウェア開発、プロジェクトマネジメントなど、高度ITソフトウェア開発を担う人材へと成長したい人、さらなるスキルアップを目指す人。

開講予定講座

履修証明プログラム(社会人等の受講生に対して法に基づいて交付される履修証明書付きプログラム)として開講予定です。

情報基盤整備支援士講座:企業のDX化、学校のICT化を支援する基盤/機器の整備支援者の養成

情報教育支援士講座:小・中・高等学校から生涯学習に至るまでの情報教育支援者の養成

応用ソフトウェア開発支援士講座:理工系人材が情報産業への転職および新規採用するための基礎教育その他、PSP、TSPなど社会のニーズに応じた実践的な講座が設計される計画です。

PSP/TSP 講座

ソフトウェアプロセスに基づく自己マネジメント:入門編 期限や予算を守りつつ高品質なソフトウェアを開発するための、規模と時間の見積もり、計画の立案と追跡、品質改善の考え方を理解します。

紹介動画



PSP/TSPの概要と導入 個人やチームで期限や予算を守りつつ高品質なソフトウェアを開発するための合理的なマネジメント手法の概要を講義し、演習を通して規模と時間の見積もり、計画の立案と追跡、品質改善の手法の概要を学びます。

PSP 個人がプログラムを開発するためのソフトウェアプロセス(PSP)の基本的知識を講義し、演習を通してソフトウェア規模と開発時間の見積もり、計画立案と追跡、品質計画、品質測定、品質改善の手法を修得します。

TSP チームでソフトウェアを開発するためのチームソフトウェアプロセスの基本的知識を講義し、演習を通して自立チームの構築、ソフトウェアの規模と時間の見積もり、プロジェクト計画の立案と遂行の追跡、品質管理と品質改善、プロジェクトメンバー間のコミュニケーションなどの手法を修得します。

応用ソフトウェア開発支援士講座

ソフトウェアプロセスに基づく自己マネジメント:入門編

同上

IoT時代の組込みプログラミング

IoTのための組込みシステムの開発を効率的な構築手法の習得を織り交ぜつつ学びます。MPUボードを用いたシステム開発のスキル、オブジェクト指向と実時間システムに基づいた手法でネットワーク上の連携を実現するスキルを習得します。

基礎から学べるCプログラミング

C言語を用いてプログラミングの概念を学びつつ、データ構造とアルゴリズムやオブジェクト指向に繋がる基礎を学びます。

基礎から学べるPythonプログラミング

Pythonの文法について学び、正規表現やクラスの概念を理解し、データ処理の基礎を学びます。特に、正規表現やディクショナリ、各種ライブラリを使う方法について理解し、機械学習ライブラリの動作までを学びます。

実践演習・APIを活用したソフトウェア設計

ソフトウェア開発では、APIを活用して機能を改良することや開発工数の削減が重要なスキルとなります。本演習はAPIを活用した実践的なスキルを学びます。特に、ソフトウェア設計の例としてLINEのボット制作を通じて、APIのセキュリティおよび使い方を習得し、他のAPIへも応用できるスキルを学びます。

データ変換が直接表現できるElixir言語で学ぶIoT応用

データ変換を直感的に記述できる関数型言語Elixirを用いてIoT開発を学びます。温度・湿度センサーを取り付けたRaspberry Pi 4からデータを読み取り、グラフ描画を行う処理を通じてIoT開発に関するスキルを習得します。

ウェブサイトの構築を通じて学ぶクラウド基礎

ソフトウェアの開発、ローンチにおいて必須の技能となっているクラウドの基礎を学びます。WordPressを題材に、クラウド上にウェブサイトを構築することを通じて、クラウドの概念、コンピュータリソースの作成、接続などのクラウド利用の基礎を修得します。

基礎から学べるスマートコントラクト開発

ブロックチェーンの仕組みとスマートコントラクトを利用したアプリの開発方法を学びます。Solidity言語を用いたスマートコントラクトを作成し、ブロックチェーンを利用したアプリケーション作成のスキルを学びます。

情報教育支援士・情報基盤整備支援士講座

情報リテラシー

コンピューターを扱う基本的な技術とコンピューターに関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。コンピューターの利用については、基本的な操作からオフィスソフトの利用方法、インターネットの利用と問題点を学びます。

紹介動画



プログラミング入門

プログラミングの基本概念を理解し、ビジュアルプログラミング言語を利用してプログラムの構造を学んだ上で、PythonやC言語を用いた簡単なコーディングができるようになることを目指します。また、論理的思考力を養い、業務の効率化に活かせる知識を修得します。プログラミング経験は問わない、初心者向けの科目です。

情報ネットワーク

ネットワーク工学の基本を、毎日使うウェブやメールの仕組みから、トラブル時に役立つ知識まで、広く学びます。具体範囲は、PCのネット関連コマンド操作やウェブページ作成、さらに信号データの解読や手作業による原理の確認などを含みます。

データベース

データベースの基礎概念からデータベースの設計法、データベースプログラミングまでを習得する。

計算機システム

計算機システムならびに計算機アーキテクチャ(システムの設計・開発に必要なハードウェアの知識)の基本概念、デジタル計算機上での様々な種類のデータの表現方法、算術、論理演算の仕組みを理解させることを目的として、計算機システムの基本構成、動作原理、機能およびその機能の実現方法等について解説します。

情報倫理

インターネット社会における特徴を概観し、事例を示しながら解説します。また、情報社会の光と影について、適切に適応できる知識や技術等、情報モラルのスキルを習得するための演習を行います。

情報社会と教育

情報技術の革新がもたらす社会的影響について講義します。情報社会における教育の変革や情報化について理解を深めるとともに、情報教育や教育の情報化におけるICT支援の内容や方法について扱います。

情報教育の理論

小・中・高校における情報教育の目標や内容、実施状況を概説し、情報教育支援士の意義や仕事内容、仕事の実態等について、事例を示しながら具体的に解説します。さらに、児童生徒に接する際の留意点等、情報教育支援士として活動するための基礎的な知識を習得します。

情報教育の実践

学習用マイコンボード「micro:bit」を用いて、基礎的な通信プロセスを体験的に学ぶ。演習では、スクラッチ風のビジュアル言語からHTML・JavaScriptによるWebプログラミングまで、簡単なサンプルプログラムを幅広く取り扱うことで、プログラミングに慣れ親しめるように構成した。

コース概要

コースの内容

AI・データサイエンスに関する内容を学習する講座

- ▶ データサイエンティスト(基礎)講座: データサイエンス基礎、Python入門、自然言語処理と機械学習入門
- ▶ 自律型AIシステム開発支援士講座: 安全運転支援・自動運転技術入門、画像認識技術総合演習、三次元点群認識技術総合演習、深層強化学習総合演習
- ▶ その他科目: AIで用いられるデジタル処理とそのLSI設計、情報処理・データサイエンス、人工知能応用

主な対象者

- データサイエンス・機械学習を基礎から学びたい社会人

得られるスキル

- AI活用の為の基本知識及びスキル
- 業務へのAI応用の為の開発スキル
- データの活用スキル・新規事業開発の基礎能力

自律型 AI システム 開発支援士講座

安全運転支援・自動運転技術入門

安全運転支援・自動運転技術の発展を支える技術について学びます。特に、深層学習による交通環境の認知の高精度化の歴史に焦点を絞り、技術解説します。

画像認識技術総合演習

車載カメラを用いた画像認識技術の理解を深めることを目標として、MATLABを利用した深層学習について演習を行います。本演習科目を受講する上では、深層学習に関する基礎知識、およびMATLABの基本的な利用法を修得済みであることが望ましい。

三次元点群認識技術総合演習

車載LIDARを用いた三次元点群認識技術の理解を深めることを目標として、MATLABを利用した深層学習について演習を行います。本演習科目を受講する上では、深層学習に関する基礎知識、およびMATLABの基本的な利用法を修得済みであることが望ましい。

深層強化学習総合演習

知的なモビリティの実現には、ロボットの身体性等を考慮して自律的に適切な行動が獲得できることは重要です。本演習では二足歩行ロボットを題材に、深層学習による強化学習をMATLABを利用して実装し、深層強化学習についての理解を深めます。

単体科目

基礎から学べるPythonプログラミング

Pythonの文法について学び、正規表現やクラスを理解し、データ処理の基礎を学びます。特に、正規表現やディクショナリ、各種ライブラリを使う方法について理解し、機械学習ライブラリの動作までを学びます。

自然言語処理と機械学習入門

自然言語処理・機械学習(深層学習以前)の簡単な説明とプログラミングに関する内容です。

データサイエンス基礎

基礎力に焦点を置き、機械学習の概要からデータの前処理、基本的な機械学習モデルの種類とその使い方までを扱います。エクセルデータなどの比較的簡単な数値データに対してPythonによるデータの読み込み、前処理、機械学習、モデルによる分析や結果に対する考察がある程度行えるようになることを目標とします。

紹介動画



コース概要

コースの内容

本コースは、それぞれの分野で専門的な知識・スキルを身につけた人材を育成することを目的としています。現在2つの専門領域を提供しています。

DXを支えるためのサイバー空間の利用と防御システム制御/メカトロニクス

主な対象者

- DX推進やサイバー空間の安全活用に関心がある方
企業や組織でDX戦略を担当し、サイバーセキュリティの基礎から実践的な知識、運用方法を身につけたい方
- ITエンジニアやシステム管理者で、セキュリティ対策を強化したい方
ネットワークやサーバ、クラウドなどの運用に携わり、より高度なセキュリティや制御技術を習得したい方
- 制御システムやIoT分野のエンジニア
電気・機械の複合した複合的なシステムの設計や組立に関わる技術を習得したい方
- 情報系の基礎知識を有し、さらに専門分野を深めたい学生や若手技術者

得られるスキル

- サイバーセキュリティ関係科目
サイバー空間の利活用の知識・スキル
サイバー攻撃などに見舞われた際の事業継続プランなどの構築
- システム制御/メカトロニクス関連科目
ロボット、車などの自動化に必要な知識・スキル



サイバーセキュリティ関連科目

CIS Controls概論と実装

CIS Controlsは、米国のセキュリティ非営利団体であるCISが、企業がサイバー攻撃対策として取り組むべきことをまとめた技術的基準のガイドラインです。規模・業種・業態を問わず、網羅性が高いセキュリティ標準を学ぶことで、自身の所属する組織におけるセキュリティ対策の見直しや優先順位の検討に役立ちます。

PCI DSSから学ぶサイバーセキュリティ

クレジットカードなどカード情報保護対策の国際基準であるPCI DSSの概要と主要なセキュリティ要件について学びます。また、演習では、カード情報を取り扱うシステム上でのPCI DSS要件の実装方法を学びます。社会の重要インフラであるクレジットカード決済のセキュリティを守る基準や実装方法を理解することは、カード情報保護のためのシステム実装にとどまらず、さまざまなシステムのセキュリティ実装を設計するために役立ちます。

セキュリティインシデント事例に学ぶ再発防止策の考え方

国内で最近発生したサイバーセキュリティインシデントについて、講義と演習で学びます。講義では実際に発生したインシデントの概要と発生原因を解説します。演習では、事前対策・発見対策・事後対策のタイムラインに沿って、再発防止策をグループワークで検討する。本講座を受講することで、最近のセキュリティインシデントの事例について深く学び、効果的な再発防止策を講じることができるようになります。

システム制御/メカトロニクス関連科目

メカトロニクス

メカトロニクス機器の制御システムを設計するのに必要となる各種基礎知識を提示・説明し、知識の習得とその知識の運用能力を高めるための演習問題に取り組みます。

開講科目一覽

コース	講座	科目・概要	講師名	実施方法	定員	受講料	2025年度開講時期		
							第1期：5～9月(成績10月)	第2期：10～2月(成績3月)	
自律型AIシステム開発支援士(※1)	安全運転支援・自動運転技術入門	安全運転支援・自動運転を支える認知機能に関する基礎的な技術について理解を深める。	横田修一	非同期型	なし	44,000	第1期(7月以降開講)及び第2期		
		画像認識技術総合演習	横田修一	非同期型(一部同期あり)	なし	44,000	第1期(7月以降開講)及び第2期		
	三次元点群認識技術総合演習	横田修一	非同期型(一部同期あり)	なし	44,000	第1期(7月以降開講)及び第2期			
	深層強化学習総合演習	今川孝久	非同期型(一部同期あり)	なし	44,000	第1期及び第2期			
	AIデータサイエンス	基礎から学べるPythonプログラミング	Pythonの文法について学び、正規表現やクラスの概念を理解し、データ処理の基礎を修得する。	嶋田和孝	非同期型	10名	44,000	第1期及び第2期	
			自然言語処理と機械学習入門	嶋田和孝	非同期型	10名	44,000	第1期及び第2期	
		データサイエンス基礎	宮野英次	非同期型	20名	44,000	第2期		
		LLM(大規模言語モデル)/生成AIのための深層学習(トランスフォーマー編)	大北 剛	遠隔同期+遠隔非同期	開講条件: 2名以上	110,000	第1期 遠隔同期日 ① 8/18・8/19 午後 ② 8/28・8/29 午後 ③ 9/6 1日 第2期 遠隔同期日 未定		
		LLM(大規模言語モデル)/生成AIのための深層学習(拡散モデル編)	大北 剛	遠隔同期+遠隔非同期	開講条件: 2名以上	110,000	第2期 遠隔同期日 未定		
		仕事や業務に効く生成AI活用【入門編】【基礎編】【応用編】	岡田義史(※2)	集合研修型(対面)	20名	660,000/回	詳細はお問合せ下さい		
DX経営人材	DX入門Ⅰーユーザー目線からみるDX	デザイン思考と呼ばれるユーザー中心のアプローチを用い、それぞれの団体のもつ広報ツール(HPなど)を材料として業務改善の方法について学ぶ。	安永卓生	集合研修型(対面+遠隔同期)	なし	440,000/回	詳細はお問合せ下さい		
		DX入門Ⅱー問題解決とその方法	安永卓生	集合研修型(対面+遠隔同期)	なし	440,000/回	詳細はお問合せ下さい		
	DX入門Ⅲーデータからみるためのスキル	安永卓生	集合研修型(対面+遠隔同期)	なし	440,000/回	詳細はお問合せ下さい			
	高校情報Ⅰで学ぶDXの基礎Ⅰー情報社会での問題解決	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期			
	高校情報Ⅰを参考に、情報技術を活用する現代社会に生じる問題への基礎的な知識とスキルを学ぶ。								

コース	講座	科目・概要	講師名	実施方法	定員	受講料	2025年度開講時期	
							第1期：5～9月(成績10月)	第2期：10～2月(成績3月)
DX経営人材	高校情報Ⅰで学ぶDXの基礎Ⅱーコミュニケーションと情報デザイン	高校情報Ⅰを参考に、コンピュータが用いる情報及びシステムデザインに関わる基本的な知識とスキルを学ぶ。	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期	
		高校情報Ⅰで学ぶDXの基礎Ⅲーコンピュータとプログラミング	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期	
	高校情報Ⅰで学ぶDXの基礎Ⅳー情報ネットワークとデータの活用	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期		
	基礎から学ぶデザイン思考	長尾 徹(※2) 青木友希(※2) 岡本 陸(※2)	非同期型	なし	44,000	第2期		
	行政DXリテラシー入門	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期		
	行政DX情報システム入門	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期		
	行政DX情報システム基礎WS	安永卓生	集合研修型(対面)	なし	440,000/回	詳細はお問合せ下さい		
	UI(ユーザインタフェース)入門	竹川佳成(※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期		
	UX(ユーザエクスペリエンス)入門	竹川佳成(※2)	非同期	30名程度	44,000	第2期		
	UI/UX基礎(仮称)	竹川佳成(※2)			44,000	2026年度開講予定		
企業経営システム入門(旧ERP入門)	企業経営における経営情報システムの役割、ERPシステムの基礎、およびERPシステムの構成と機能について修得する。	木村有寿(※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期		
	企業経営システム実践	神坂 浩(※2) 白井 泰(※2)	非同期型	30名程度	44,000	第2期		
	エンタープライズアーキテクチャ演習	白井 泰(※2)	遠隔同期予定	10名程度	110,000	第2期 後半		

2025年4月現在の情報です。開講時期・募集時期は予定のため、変更の可能性があります。最新の情報はHPでご確認ください。

(※1)履修証明プログラムとしての実施を予定。(※2)外部講師

開講科目一覧

コース	講座	科目・概要	講師名	実施方法	定員	受講料	2025年度開講時期	
							第1期：5～9月(成績10月)	第2期：10～2月(成績3月)
高度ソフトウェアエンジニア	応用ソフトウェア開発支援士(※1)	ソフトウェアプロセスに基づく自己マネジメント:入門編	梅田政信	講義・演習: 非同期型 質問:同期型	20名	44,000	第2期	
		期限や予算を守りつつ高品質なソフトウェアを開発するための、規模と時間の見積り、計画の立案と追跡、品質改善の考え方を理解する。						
		IoT時代の組み込みプログラミング	小林史典 (名誉教授)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期	
		MPUボードを用いたシステム開発ができ、オブジェクト指向と実時間システムに基づいた手法で、ネットワーク上の連携を実現できる。						
		基礎から学べるCプログラミング	嶋田和孝	非同期型	10名	44,000	第1期及び第2期	
		C言語を用いてプログラミングの概念を学びつつ、データ構造とアルゴリズムやオブジェクト指向に繋がる基礎を学ぶ。						
		基礎から学べるPythonプログラミング	嶋田和孝	非同期型	10名	44,000	第1期及び第2期	
		Pythonの文法について学び、正規表現やクラスの概念を理解し、データ処理の基礎を学ぶ。						
		実践演習・APIを活用したソフトウェア設計	山内 修 (※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期	
		ソフトウェア開発では、APIを活用して機能を改良することや開発工数の削減は頻繁に行われており、APIを利用する演習は実践的であり就業後に即役立つ。						
データ変換が直接表現できるElixir言語で学ぶIoT応用	山内 修 (※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期			
Elixirを題材に関数型言語によるプログラミングを理解し、IoT開発への応用ができる。								
ウェブサイトの構築を通じて学ぶクラウド基礎	山内 修 (※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期			
ソフトウェアの開発、ローンチにおいて必須の技能となっているクラウドの基礎を修得する。								
基礎から学べるスマートコントラクト開発	中城元臣 (※2)	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期			
Solidity言語を用いたスマートコントラクトを作成し、ブロックチェーンを利用したアプリケーションが作成できるようになる。								
情報教育支援士・情報基盤整備支援士(※1)	情報教育支援士・情報基盤整備支援士(※1)	情報リテラシー	山口真之介	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		コンピューターを扱う基本的な技術とコンピューターに関する基本的な知識を修得する。						
		プログラミング入門	中基 隆	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		プログラミングの基本概念から実践的なスキルまでを修得します。ビジュアルプログラミングを使って基本構造を理解した後、PythonやC言語を用いたコーディングを学びます。プログラミング経験は問わない、初心者向けの科目です。						
		情報ネットワーク	尾知 博 (名誉教授)	非同期型	15名	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		ネットワーク工学の基本を、毎日使うウェブやメールの仕組みから、トラブル時に役立つ知識まで、広く修得する。						
		データベース	田中和明	非同期型	30名	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		データベースの基礎概念からデータベースの設計法、データベースプログラミングまでを習得する。						
		計算機システム	江本健斗	非同期型	なし	44,000	第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		計算機システムの基本構成、動作原理、機能およびその機能の実現方法等について解説する。						

コース	講座	科目・概要	講師名	実施方法	定員	受講料	2025年度開講時期	
							第1期：5～9月(成績10月)	第2期：10～2月(成績3月)
高度ソフトウェアエンジニア	情報教育支援士・情報基盤整備支援士(※1)	情報倫理	阿濱茂樹 (※2)	非同期型	なし	44,000	第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		情報社会の光と影について、適切に適応できる知識や技術等、情報モラルのスキルと習得するための演習。						
		情報社会と教育	浅羽修文 (※2)	非同期型	40名	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
		情報社会における教育の変革や情報化について理解を深めるとともに、情報教育や教育の情報化におけるICT支援の内容や方法について扱う。						
		情報教育の理論	西野和典 (名誉教授) 池田 勇 (※2) 山崎由美子 (※2)	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。	
	小・中・高校における情報教育の目標や内容、実施状況を概説し、情報教育支援士の意義や仕事内容、仕事の実態等について、事例を示しながら具体的に解説する。							
	情報教育の実践	荒川 等	非同期型	20名	44,000	第1期及び第2期 ただし、過去の受講者は、15,400円とする。		
	学習用マイコンボード「micro:bit」を用い、スクラッチ風のビジュアル言語からHTML・JavaScriptによるWebプログラミングまでの幅広いサンプルを通して、プログラミングに親しみながら基礎的な通信プロセスを学習する。							
	PSP / TSP	PSP/TSPの概要と導入効果	片峯恵一/ 梅田政信/ 日下部茂/ 荒木俊輔/ 他	対面	10名 開講条件:3名以上(2社以上)または5名以上(1社のみ)	110,000	下記の日時の中から2回実施予定 6/7、6/28、8/2、9/6、12/13	
		個人やチームで期限や予算を守りつつ高品質なソフトウェアを開発するための合理的なマネジメント手法の概要を講義し、演習を通して規模と時間の見積り、計画の立案と追跡、品質改善の手法の概要を修得する。本科目は主にマネジメント層を対象とする。						
PSP		片峯恵一/ 梅田政信/ 日下部茂/ 荒木俊輔/ 他	対面+同期型+非同期型	10名以下 開講条件: 4名以上	660,000	第2期 対面及び遠隔同期の開講日未定		
個人がプログラムを開発するためのソフトウェアプロセス(PSP)の基本的知識を講義し、演習を通してソフトウェア規模と開発時間の見積り、計画立案と追跡、品質計画、品質測定、品質改善の手法を修得する。本科目は主にエンジニアを対象とする。								
TSP	片峯恵一/ 梅田政信/ 日下部茂/ 荒木俊輔/ 他	詳細はお問合せ下さい。				2026年度 開講予定		
チームでソフトウェアを開発するためのチームソフトウェアプロセスの基本的知識を講義し、演習を通して自立チームの構築、ソフトウェアの規模と時間の見積り、プロジェクト計画の立案と遂行の追跡、品質管理と品質改善、プロジェクトメンバー間のコミュニケーションなどの手法を修得する。本科目は主にエンジニアを対象とする。								
—	デジタル画像処理入門	安永卓生	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期		
	各種の業務で用いられている画像(静止画、動画)をデジタル化し、処理するための基礎となる知識と画像処理法のスキルを、演習を通して修得する。							
専門人材特化型コース	サイバーセキュリティ	CIS Controls概論と実装	瀬田陽介 (※2)	非同期型 (一部同期あり)	なし	44,000	第1期及び第2期 ・第1期同期演習日(7/10、8/30) ・第2期同期演習日(11/26、1/28)	
		CIS Controlsは、米国のセキュリティ非営利団体であるCISが、企業がサイバー攻撃対策として取り組むべきことをまとめた技術的基準のガイドラインである。規模・業種・業態を問わず、網羅性が高いセキュリティ標準を学ぶことで、自身の所属する組織におけるセキュリティ対策の見直しや優先順位の検討に役立つ。						
		PCI DSSから学ぶサイバーセキュリティ	瀬田陽介 (※2)	非同期型 (一部同期あり)	なし	44,000	第1期及び第2期 ・第1期同期演習日(7/19、9/13) ・第2期同期演習日(12/11、2/4)	
		クレジットカードなどカード情報保護対策の国際基準であるPCI DSSの概要と主要なセキュリティ要件について学ぶ。また、演習では、カード情報を取り扱うシステム上でのPCI DSS要件の実装方法を学ぶ。社会の重要インフラであるクレジットカード決済のセキュリティを守る基準や実装方法を理解することは、カード情報保護のためのシステム実装にとどまらず、さまざまなシステムのセキュリティ実装を設計するために役立つ。						
		セキュリティインシデント事例に学ぶ再発防止策の考え方	瀬田陽介 (※2)	非同期型 (一部同期あり)	なし	44,000	通年 同期演習日 (7/19、8/9、8/30、10/9、10/30、11/13、1/15、2/19)	
国内で最近発生したサイバーセキュリティインシデントについて、講義と演習で学ぶ。講義では実際に発生したインシデントの概要と発生原因を解説する。演習では、事前対策・発見対策・事後対策のタイムラインに沿って、再発防止策をグループワークで検討する。本講座を受講することで、最新のセキュリティインシデントの事例について深く学び、効果的な再発防止策を講じることができるようになる。								
メカトロニクス	本田英己	非同期型	なし	44,000	第1期及び第2期			
メカトロニクス機器の制御システムを設計するのに必要となる各種基礎知識を提示・説明し、知識の習得とその知識の運用能力を高めるための演習問題に取り組む。								

2025年4月現在の情報です。開講時期・募集時期は予定のため、変更の可能性があります。最新の情報はHPでご確認ください。

(※1)履修証明プログラムとしての実施を予定。(※2)外部講師

お申込みはこちらから▶

